



生かして初めて価値がある

校長 赤松 弘一



オリンピック・パラリンピックが終わりました。全力で競技する選手たちは様々な感動を与えてくれました。一方で新型コロナウイルス感染拡大の中での開催や、計画を大きく超える費用について、様々な意見もありました。

ようやく緊急事態宣言が解除されましたが、このまま感染が収束するとは思えません。これまでの取組から得られた対処法をさらに改善し予防に努めたいと思います。

さて、中々先の見通せない日常に明るいニュースがもたらされました。真鍋淑郎（まなべ しゅくろう）博士がノーベル物理学賞を受賞されました。日本人としては2年ぶり、28人目の栄冠です。まだ地球温暖化にそれほど注目が集まっていなかった1980年代に、コンピューターを使って二酸化炭素の増加と気候変動の関係を予測する研究に打ち込まれました。現在私たちが天気予報で聞く長期予報などは真鍋博士の研究がその基盤にあります。

私はノーベル賞の発表があるまで、真鍋博士の存在も、私たちの生活にかかわる大切な研究があったことも知りませんでした。私たちの生活を支える様々なテクノロジーは、このように強い好奇心を持ち、何十年も前から基礎研究に打ち込んできた人々の成果なのだと改めて知りました。今もスポットライトの当たらない場所で地道な研究を続けているたくさんの人々がいるということにも気付きました。真鍋博士は研究を始めた時「温暖化への危機感があって取り組んだわけなかった。ただ好奇心に突き動かされて研究を続けてきただけ」と言います。解明したいという情熱をもち、途中で投げ出さず、まっすぐに取り組むことが大切なのですね。

今、人類は様々な危機に直面していると思います。新型コロナのような未知のウイルスの感染拡大や、核兵器を持つ国が互いの覇権を争い、戦争につながりかねない危機。そして、ゆっくりと確実に進行する地球温暖化に伴う気候変動。今回の真鍋博士の受賞で温暖化へ関心が高まり、その対策が進むことを祈ります。

2年前、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんは、16歳の高校生の時に国連で「私たちは大絶滅の始まりにいます。なのに、あなたたちが話すのはお金や永続的な経済成長というおとぎ話だけ！よくもそんなことを」と大人たちに向けて環境保護を強い言葉で訴えました。その後、世界は少しずつ動き出したように見えますが、それ以上に温暖化の進む速度が速まっているように思います。

よりよい未来のための素晴らしい発見も重大な警鐘も、今の暮らしがよければよいという狭い視野では生かせません。未来を生きる子どもたちのために、大人は負の遺産を残さぬようにせねばならないでしょう。そして若い皆さんは、しっかり真実を見つめる目をもち、科学的にももの考える力を身に付けてほしいと思います。学校はそれを育み伸ばしていく場であるように努めたいと思います。